

南相馬市小高区飯崎地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 地域の土地利用の合意形成を図り、水稻、大豆、タマネギ輪作体系の適正な実施
- 暗きよ及び補助暗きよ施工ほ場での作付により、大豆の収量・品質向上
- 水稻・大豆、タマネギの輪作体系における大豆収支の試算

2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【R3作付面積】水稻：32.7ha、大豆：27.2ha、タマネギ1.97ha
- 基盤整備事業を契機に任意組織として設立、H31年法人化
飯崎地区の担い手組織となる
震災後、H26に試験的に大豆を導入。H28より本格的に作付けを開始し、徐々に面積を拡大（R3：27.2ha→R5：30.9ha）
- R5年から、水稻、大豆、タマネギでブロックローテーションを実施



飯崎地区大豆ほ場

3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<需要に応じた品種選定>

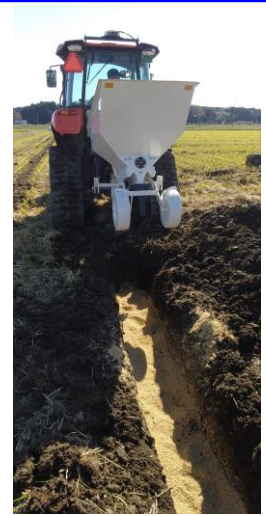
- H30年に「里のほほえみ」を試験的に導入
- 収穫時の脱粒が少なく、作業性が良いことから、R3年に全面積品種転換

<品目別のブロックローテーション実施、排水対策の徹底>

- 作期が異なる品目の組み合わせや、品目別で団地化・ブロックローテーションを行うことで、労力分散、適期作業を実施
- 基盤整備後の暗きよ設置ほ場にて、大豆を作付け
暗きよがないほ場には、モミサブローで補助暗きよを設置し排水対策を実施

<スマート農業を活用した大豆栽培>

- 自動操舵システム付きトラクタを使用した大豆播種、ドローンを使用した農薬散布により病害虫防除を実施することで、作業負担の軽減、効率化を実現
- 営農管理システムによりほ場や作業の情報を一括管理



補助暗きよ施行の様子

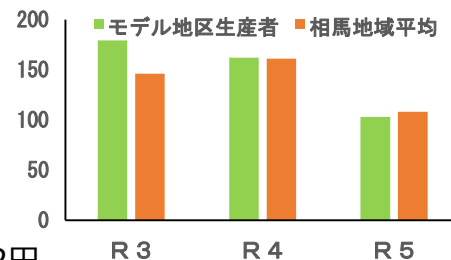
4 取組成果

<ブロックローテーション等の実施による収量確保>

- ブロックローテーション、排水対策の徹底、適期作業の実施により、相馬地域の平均単収と同等～上回る単収を確保

<安定した農業所得の確保>

- R5年における大豆収支（10aあたり）
収入 91,676円(交付金含む) - 支出 64,984円 = 所得 26,692円



5 課題（6年度のポイント）

- カメムシ対策として、フェロモントラップ設置や、すくい取り調査を行うことで発生状況を把握し、適期防除の徹底を支援する。
- ほ場地下水位の測定を行い、開花期以降は入水により地下水位を維持することで収量向上に繋げる。
- 水稻・大豆・タマネギ・子実用トウモロコシの輪作体系における収支の試算を行う。